現職研修委員会　社会科部報

羅針盤

２１８号
令和４年.10.31

社会科部　情報活用委員会

縄文と今、そして、未来

矢作北小学校　校長　竹平　真仁

夏休みの終わりに長野県茅野市を訪れた。目的は国宝の土偶を見るためである。現在、国宝に指定されている土偶は５体あるが、そのうちの２体が「茅野市尖石（とがりいし）縄文考古館」で常設展示されている。通称「仮面の女神」「縄文のビーナス」と呼ばれる２体である。いずれも高さ約 30 ㎝、重さ３㎏程の土偶である。前者は縄文時代後期前半、後者は中期に作られたと推測されている。

「仮面の女神」は逆三角形のお面をつけたような顔と、丸く太い足が特徴である。手は短く、簡略化されているように感じる。「縄文のビーナス」は帽子をかぶったような頭部と、大きく張り出したお腹とお尻が特徴的で、妊婦を表していると考えられている。土偶の映像や詳しいことは上記の考古館ホームページに掲載されているので興味のある方はそちらをどうぞ。

さて、展示室でガラス越しにではあるがこの２体と向き合っていると、何とも言えない存在感があり、何かを語りかけてくるようであった。そして、誰が何を考えながら作ったのだろう、どのように使われたのだろうと想像が膨らむ。通常、土偶は壊された形で出土することが多いのだそうだが、この２体はほぼ完全な形で見つかっている。誰が何を考えて埋めたのだろう…。

この考古館は他にも膨大な数の出土品が展示されている。また、とにかく興味をもってもらいたいという情熱を解説からも感じる。それほど強い興味をもっていたわけではない私も、つい引き込まれてしまった。そんな縄文時代についての解説の中で次の２つのことが心に残った。

①祖父母の世代を含む３世代が共に生活できるようになったことで社会の発展が加速した。

②今よりも栄養状態が良くなかった当時、妊娠したり出産をしたりすることがとても難しかった。

この①については、知識や経験の伝承や子育ての援助などが行われることの大切さを感じるし、②については、理由は異なるが現代の少子化問題との共通点を感じる。はるか昔から人は次の世代へ、より豊かに生きるための知恵を継承し続けてきたし、生物としての人間は変わらないのだと改めて感じた。そして、当たり前のことではあるが今を生きる人は全て、あの土偶が作られた時代の人の命とつながっていることを実感した。

今、私たちは次の世代へ何を引き継いでいけるのだろう。情報化が進展し、瞬時に世界中の人とつながれたり、情報を手に入れることができたりするが、人とのつながりや直接体験は希薄になっている。さらにコロナ禍がそれをあらわにした。改めて学校での集団的な学びや体験学習、そして、地域とのつながりを大切にしていく必要を感じる。

令和４年度社会科研究作品展

岡崎市内の小中学校から、１３８点の作品が「りぶら」に展示されました。どの作品も、疑問に思ったことから、現地に調査へ出かけて調べたり、聞き取り調査をしたりするなど、すばらしい研究でした。また、学校代表作品として出展された全ての作品が、入選作品として表彰されました。

県教研　正会員

◆第 69 次教育研究愛知県集会

【小学校】

六名小　中西　歩澄先生

広幡小　内田　敏明先生

【中学校】

美川中　吉見　　明先生

六ツ美北中　成田　道俊先生

「三河教育研究会　社会科部会夏季研修会」報告

８月４日（木）、蒲郡市民会館において三河教育研究会　社会科部会夏季研修会が開催されました。市内から 90 名以上の先生方に参加していただきました。土屋武志先生（愛知教育大学教授）による講演の後、小学校分科会で内田敏明（広幡小）、中学校分科会で成田道俊（六ツ美北中）の両先生が岡崎市代表として実践発表を行いました。参加者と活発な討議がなされ、各実践とも高い評価を得ました。

発見！一押し地域教材！

「忠魂碑」「戦争体験者の証言」（豊富小学区）

豊富小学校　中西　悠

★授業への活かし方

〇小学６年生　単元「長く続いた戦争と額田の人々のくらし」

〇学習課題

「当時の額田の人々は、どんな思いで戦争と向き合っていたのだろうか」

★この教材を使い、工夫した点

① 身近なものから、対象への関心を高める

学校のすぐ隣に忠魂碑があり、そこには日清・日露戦争の戦没者の名前が記されています。子供たちは、日頃から目にしている忠魂碑が戦争と関連していることに驚きました。さらに、これから学習する長く続いた戦争に関する記述が無いことに疑問をもちました。子供たちはこれから学習する長く続いた戦争は日清・日露戦争と何が違うのかについて追究を始めました。

② 戦争体験者の思いに迫り、自分事として寄り添う

学区の戦争体験者に話を聞くことは、子供たちにとって、歴史上の遠い出来事を身近に感じるまたとない機会です。子供たちは上記の学習課題について考える中で、現代の視点から当時の人々の気持ちを考えていたことに気付きました。そして、地域の戦争の記憶が受け継がれていかないことに危機感をもった子供たちは、ふるさとの戦争の記憶を残すために、体験者の証言をビデオメッセージの形で残そうと行動しました。

必見！授業技！ ～スクールタクトを活用した授業～

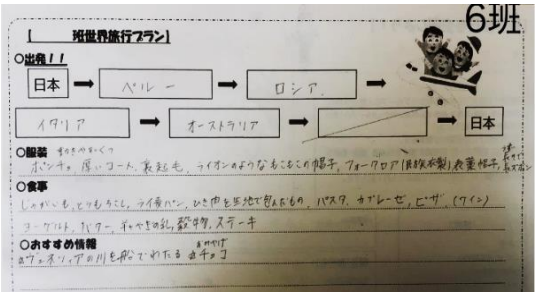
新香山中学校　實松　勇太

【本時までの流れとねらい】

地理「世界各地の人々の生活と環境」の単元のまとめとして、「世界旅行を企画しよう」の学習を行った。これまでの学習で、世界各地の気候帯・気候区分において生活する人々の衣食住について探る学習を通して、人々が知恵を出し合って自然環境に順応して生きているということに生徒たちが気付いた。そこで、生徒個々がこれまで学習してきた中から行ってみたい国について調べ、グループで集約して世界旅行という形にまとめる活動に取り組むこととした。このまとめに用いたツールがスクールタクトである。スクールタクトをうまく活用することで、各グループが企画した世界旅行を全員が共有するとともに、そのよさを見つけコメントをするという主体的な活動の展開をねらいとした。

【スクールタクト活用の成果】

①スクールタクトのコメント機能を使い、それぞれのグループに対してプランのよいところやアドバイスを入力できるようにしたことで、全員が複数のグループへ自身の考えを伝えることができた。

②コメントされたプランのよさやアドバイスをすぐに確認できるため、自分たちのグループのプランの見直しが可能となった。多様な視点からのコメントを見ることで、自分のグループのよさを認識するとともに、さらによいプランにしようという意欲を高めることができた。

スクールタクトのコメント機能を活用して自分たちのプランに対するコメントを見る生徒